

子育て世代の思いを 益城町の復興に



益城町復興支援チーム
「しあわせの輪」

左からメンバーで2児のママ守口真奈美(もりぐちまなみ)さん、3児のママ高田彌花(たかだみか)さん、2児のママ平野加理(ひらのかり)さん

熊本地震で甚大な被害に見舞われた上益城郡益城町。同町の復興支援チームとして活動するボランティア団体「しあわせの輪」(高田彌花代表)が2018年5月、町の魅力を発信する「kumamap(クママップ)」を発行しました。「子育てフアミリー、地域住民、益城を応援してくれる人々をつなぎ、地域復興のかけはしになりたい」と語るメンバーに話を聞きました。

地震をきっかけに 実現へ向け加速した夢

自営業の高田彌花さん(34)と、保育士の守口真奈美さん(38)は、結婚後益城町で暮らし、同じ保育園に子どもを取り巻く社会問題に関心の高かった

二人は意気投合し、「いつか大好きなこの町で、子どもからお年寄り、障がいのある子も、不登校でなかなか人と触れ合う機会のない子も、世代や境遇の垣根を越え、気軽に集える場を作りたい」と、将来の夢を語り合ったうようになりました」と守口さんは話します。

そんなときに発生した熊本地震。湾曲した道に、崩れ落ちる家々…。のどかな町の風景、人々の暮らししが一変しました。

ようやく日常を取り戻し始めた中、「昔から住んでいたけれど益城町って何もないよね」と、町から引っ越していく同世代の家族を見送る日々。「こんなに自然豊かで、住んでいる人々も温かい素敵な町なのに…」。もどかしい気持

ちと、「益城町が大好き」という二人の思いが重なり、自分たちで益城の魅力を発信し、地震前より活気にあふれ、人々が集まつてくる町にしていくことを動き始めました。

ママ友3人で広げる 「しあわせの輪」

2017年9月に、同町復興支援チーム「しあわせの輪」を立ち上げ、助成金や、益城町の店舗などから協賛を受け、ボランティアで町の魅力を発信するおでかけマップの制作を開始しました。といつても何から始めてよいか分からぬ二人を、デザインや取材構成、撮影などでバックアップしてくれたのが、高田さんのママ友で熊本市に住むフリーデザイナーの平野加理さん(34)でした。

まずは、自分たちの足で町を歩き、子どもを安心して連れて行けるお店の情報を把握するところから始めました。「それそれが仕事をしているので、3人同時に動ける時間が限られています。打ち合わせや取材もできる限り一気に

れているような気持ちになるんです。休日に訪れたい町になりました」と笑顔を見せます。

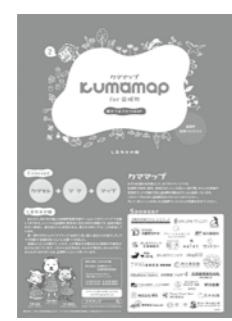
町と新しく移り住む人の つなぎ手に

濟ませ、あとはSNSで連絡を取り合ひながら編集を進めました。(高田さん)マップに取り上げたのは、子ども連れでも気兼ねなくつろげる飲食店や雑貨店、四季折々の風景を楽しめるスパートなど、「ママ視点」で厳選した情報ばかりです。

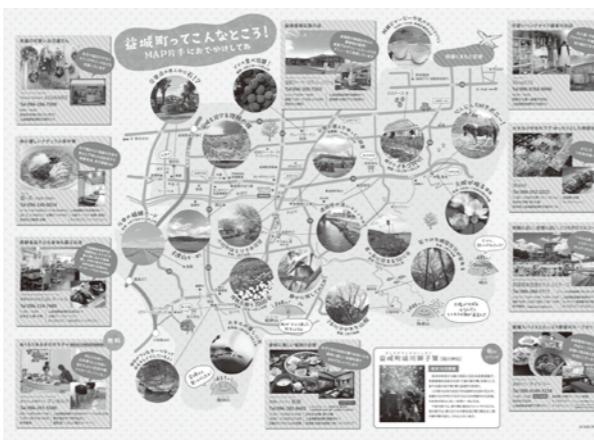
また、町のシンボル飯田山と金峰山の背くらべなど、同町に伝わる民話も盛り込みました。「地震で怖い経験をした子どもたちに、少しでも町の楽しさを伝えたい、愛着を持つてほしい」と思、加えました。町外の友人からも『益城町を通るたびに、子どもが飯田山の話を喜ぶようになりました』という声が寄せられたんですよ」と高田さんは声を弾めます。

平野さんも、「益城町に住んでいい私ですが、取材を進めるうちに、どんどん益城の魅力に引き込まれました。特に秋津川沿いから望む飯田山・船野山・朝来山・城山からなる四連山の景色はお気に入り。眺めると、見守らさんは声を弾めます。

今後もママをはじめ、子育て中のパパ、地域住民、益城を応援してくれる人々をつなぐ旗振り役として、益城復興のかけはしとなり活動を続けていきます。



■クママップに関する問い合わせ...
mail@lizgraphic.jp
クママップ 検索
<https://www.facebook.com/mashikimap>



「クマモト+ママ+マップ」をコンセプトに発行されたおでかけマップ。表紙は、平野さんのアイデアで、益城町の地形を模したデザインに。紹介店の他、益城町役場、ミナテラスなどで入手可



益城町交流情報センターミナテラスが活動の拠点。打ち合わせなどは、ここに集まり行います

